

## キャンプ場で行うグリーンウッドワーク講座

—さまざまな森の恵みとの組み合わせの可能性を探る—

森と木のクリエイター科 木工専攻 水上 淳平

### 1. 研究背景と目的

#### <背景>

私はアカデミーに入学する以前に、岐阜県郡上市の山間の町でキャンプやレジャー関係の仕事をしていた。自然の中で遊ぶことや癒しを提供しているのに、さまざまな森の恵みが体験や木工品に活用ないことに気づき、その術を学ぶべくアカデミーに入学した。

アカデミーでグリーンウッドワークを体験し、身の回りに生えている小さな木から生活の道具ができたことが衝撃的だった（グリーンウッドワークとは、乾燥していない生木を人力の道具を使って加工する技術のことである）。生き物だった木が道具に変わることは、「自然との繋がり」や「森の恵みを直接利用する」という時代の流れと共に人々が手放したものだ。現代の人々にとって、グリーンウッドワークに重要な役割があると感じた。

一方、社会的背景として年々キャンプ人口が増加傾向にある。郡上市内にも多くのキャンプ場があり、森の恵みを活かしたサービスを地域の魅力としていきたい！という動きが高まってきている。そういった流れのなかで、キャンプ場というフィールドで森の恵みと組み合わせたグリーンウッドワークの講座ができれば、魅力的な体験になると考えた。

#### <目的>

キャンプ場というフィールドで、どのような森の恵みと組み合わせたグリーンウッドワークの講座ができるのか、実践を繰り返しながら可能性を探る。

### 2. 調査（フィールドの設定）

郡上市内にある15箇所のキャンプ場で、どのような森の恵みを活かした体験を提供しているかWEB調査を行い「オークひるがの」「ウッドマッチム」の2箇所のキャンプ場に聞き取り調査を行った。前者は貸コテージを中心に、キャンプ場や体験のアクティビティのガイド業などを行っており、従業員も複数いるような施設である。後者は開放的な牧草地や森林の中で、受入を1日5組限

定とした家族経営のキャンプ場である。どちらのキャンプ場も森の恵みを活用や、グリーンウッドワークに関心があることが分かり、講座の開催地として協力していただけることになった。

### 3. 企画と実践

それぞれのキャンプ場にどのような森の恵みがあり、どのような講座を行うことができるか、キャンプ場オーナーと打ち合わせをしながら講座を企画していった。

#### <製作するアイテム>

私は木工品の中でも、スプーン作りに魅力を感じ、数多くのスプーンを作ってきた。スプーン作りであれば自信を持って教えられる、さらにキャンプで使える道具であることから、本研究のグリーンウッドワークで製作するアイテムはスプーンとすることにした。

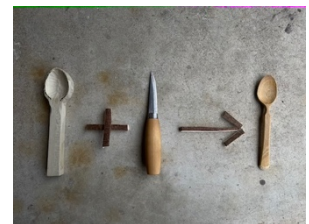
#### 3-1. スプーン&キャンプ場（ウッドマッチム）

##### 【目的】

キャンプ場という気持ちの良い空間そのものが森の恵みであると考えた。お客さんがキャンプの合間の時間で参加できるようにしたい、というオーナーの希望から2時間半という時間を設定した。

##### 【内容】 所要時間:2時間半

気持ちのいい自然の中で、ナイフを使ってスプーンを作る。材料は材料を予め途中まで加工したものを用意し、木工未経験者でも時間内に完成させられるようにした。加工された材料からスタートするため、その状態になるまでにどんな道具を使い、どんな作業をしたのか説明を加えた。



##### 【評価/考察】

途中まで加工した材料を使用することで、時間内にきれいなスプーンを作り上げることができた。参加者からは、「自然の中での作業が開放的で気持ちよかった」という感想があり、キャンプ場という森林空間を活かしたものになった。オーナーからは「講座を行うことで施設の雰囲気も良くな

り、キャンプ場の宣伝にもつながる」と感想をいただいた。しかし、作業内容や時間に余裕もあったのでスプーンづくりを通して、さらに森の恵みを使っていることを実感してもらえるように、道具や素材などの内容を見直すことにした。

#### 【スプーン作りの見直し】

なるべく立木に近い姿の丸太から始め、樹皮のついたスプーンを作ることで、森の恵みであることを実感してもらうことにした。作業も丸太を割る、オノではつる、匙面を掘るという作業が講座の魅力をあげるものになると考えた。作業ボリュームが増えても、時間内に完成できるよう、削りやすい樹種を使用し、小径木を使用することで、時間内に収めることができた。



### 3-2. スプーン&キノコ狩り（ウッドマッチム）

#### 【目的】

食の分野の森の恵みである、きのこを安全に利用できるようになりたいと思い、アカデミーできのこについての学びに力を入れてきた。地元飲食店と協力してきのこの活用する活動も行っている。そこで、野生のきのこを活用した講座の検証を行った。



#### 【内容】 所用時間：4時間

使用する木材ときのこの関係性などを解説しながら、改良した樹皮つきスプーンづくりを行う。その後、キャンプ場周辺の林を散策し参加者自らがきのこを収穫しきのこ鍋を作る。出来上がったきのこ鍋を自ら作ったスプーンで堪能する。

#### 【評価/考察】

実際に森に入ることや、丸太から作業を始めることで、素材、食、空間それぞれの森の恵みを感じてもらえることができた。参加者からは、「木そのものからスプーンが作れて面白かった」「作って食べて森の恵み満喫できた」、オーナーからは「様々な種類のきのこが採れることに驚いた」という感想をいただき、前回の講座よりも森の恵みを活用した講座になったことを実感した。

### 3-3. スプーン&焚き火（オークひるがの）

#### 【目的】

キャンプ場に勤務していた経験から焚き火も森の恵みであると感じていた。ガス、石油、電気といったものが現代の主な燃料であるが、薪も素晴らしい燃料である。スプーン作りの中で、沢山の木屑や木端が発生する。その副産物を捨てるのではなく、燃やして暖をとったり、調理に使うことに活用できれば、二度楽しめる面白い体験になると考えた。



#### 【内容】 所要時間：2時間

改良した樹皮つきスプーン作りと、その近くで焚き火とベーコン作りを行う。合間の休憩には、暖まるだけでなく、焚き火で沸かしたお湯でお茶を飲んだり、マッシュマロを焼くことにも利用した。

#### 【評価/考察】

参加者からは「特別な道具を使わずに、木屑で燻製ができることに驚いた」という感想をいただき、キャンプ場の支配人からは「木屑を有効に使った面白い体験だった」「お客さんに体験のニーズがありそう」という感想をいただいた。木材が燃料としての森の恵みであることを感じてもらえたと思う。

### 4. まとめ

森の恵みを活用した3種類の講座を実施してきた。今回の実践を通してキャンプ場というフィールドでは「木材」「空間」「食」「燃料」といった、さまざまな森の恵みを組み合わせる講座の可能性を見出すことができた。さらに、森の恵みを活用することでグリーンウッドワークの講座自体も魅力的なものになると感じた。キャンプ場経営者からこれからも続けて欲しいという声もいただき、ニーズがあることもわかった。

### 5. 今後の展望

卒業後は本研究で得られた経験を元に実際に活動していく予定である。自分主催の講座を開催するフィールド提供や、イベント出店、またはキャンプ場が運営する体験の講師としてなど、様々な関係が築けると良いと考えている。森には面白くて可能性に満ちた森の恵みが沢山眠っている。それらを魅力的に伝える活動を積極的に行っていきたい。